

## 令和6年度 第2回 高知市財政問題懇話会 会議録

【開催日時】 令和6年8月6日（火）10時00分～12時00分

【場 所】 本庁舎6階大会議室

【出席者】 ・高知市財政問題懇話会委員7人（1名欠席）  
・神谷副市長，弘瀬副市長，財務部，総務部

### 【議 事】

- 1 第1回でいただいたご意見について
- 2 類似団体との比較結果
- 3 高知市財政に係る SWOT 分析
- 4 今後10年間の一般財源の収支推計

### 【委員からの意見等】

- ・技術的な意見というまとめ方をしているが、中身を見ると「技術的」という表現はあまりふさわしくないように思う。
- ・令和4年度の実質単年度収支は赤字となっており、令和3年度は黒字。新型コロナウイルスの影響でかなり変動が激しい。新型コロナウイルスという特殊な要因で一定程度財政面が改善している側面があり、構造的な問題とは違うのではないかと想像する。そういう点を分析したほうがよいのではないか。
- ・令和2年度から令和4年度までは新型コロナウイルスの影響で、イレギュラーな決算となっているため、それを除いて示していただくほうがよい。
- ・前回の議論について分かりやすいまとめ方にしてくれている。これからの財政を考えるという意味では、新型コロナウイルスの影響がない令和5年度決算を見ながら意見を述べさせていただきたい。
- ・高知市も様々な構造改革に取り組み、PDCA サイクルを実施していると思うので、コロナ禍というイレギュラーの状況ではあったが、高知市としてどんな目標を掲げて、どんな取組をしているか、その結果がどうだったのかについて説明を聞いて、課題点や修正点を考えていくことが必要。総合計画の資料に基づいて詳細についての説明を次回以降にお願いしたい。

- ・資料のまとめ方は良いと思う。他の委員からご意見があった「技術的なご意見」というところについて、「協議に向けた視点について」や、「協議の進め方について」といったタイトルの方が適切だったのかもしれないと改めて思った。
- ・資料は論点が分かりやすくまとまっている。当会議での説明について、資料をホームページに掲載するだけでは市民全体には伝わりきれない部分があると思う。
- ・今回の懇話会では、何が最も大事なのかという理念や目的について、ディスカッションすべきだと考える。また、委員も含めて、懇話会で議論した内容について、それぞれの専門分野で協力していける体制づくりも重要だと考える。その他、市政に携わる全ての方が自信を持って仕事が進めていくことができるようにすることが重要だと考えるので、できない理由を考えるのではなく、どうやったら実現できるのか、少しでも良くしていくにはどうしたら良いのかを共有して、各職場で活かしていただき、市民サービスの充実につながっていくことに期待する。
- ・起債の交付税措置率の推移について、交付税措置率が低い起債が多いと財政運営が厳しくなってくるということがあると思うし、また交付税措置率が高いからといって過大な事業を実施した場合も、後年度の公債費負担が大きくなるといったことがあるので、交付税措置率の推移について、しっかりと評価すべきだと考える。したがって、起債残高とそれに対する交付税措置率について、次回以降に示していただくと分かりやすいと思う。
- ・地方財政はすごく分かりづらいと言われている。何が分かりづらいかという点、ある数字が動くと、別の数字も一緒に動くという点であり、例えるなら、「古い木のダンス」のようであり、一つの引出しを閉めると、別の引出しが開いてしまう、それが地方財政のイメージ。特に歳出の面では、色々と削減すると、その分交付税が減ってしまうということがあるので目の付け所が難しい。その中でも、閉めてもどこも開かない引出しがあって、そこに注目していくことが重要。今回の資料で言うと、それが都市計画税ということになる。都市計画税は交付税算定に含まれないので、全額が地方自治体の収入増になる。都市計画税の代わりに徴収している固定資産税の税率超過分が約12億円程度、仮に都市計画税を課税していれば約34億円となり差額は概ね20億円程度となる。一方、収支推計における毎年度の収支不足額は概ね20億円程度で推移している。都市計画税の導入の是非についてはこれまで議会でしっかり議論した結果であり、それに対して物を申す訳ではないが、現状の認識としてはそういうことなのだろうと考える。加えて、歳出における「どこも開かない引出し」を考えると、交付税措置がない起債を

財源としている事業が増えると負担が大きくなっていく。

重ねての意見だが、予算編成をしていく中で、各部局から要求が上がってくるときには、事業課は交付税措置を考えておらず、交付税措置率が高いものと低いものが玉石混交になっているので、財政当局でしっかりコントロールして、交付税措置率の高いものをしっかり使っていくことが、今後の財政状況の好転につながっていくのではないかと考える。

- ・公共施設マネジメントについて、全国的に人口減少が進む中で、今のまま維持していくのが難しいのではないかと考え方で公共施設等総合管理計画を策定しているものだが、高知市は県庁所在市として様々な施設を持っているので、長期的な視点で集約化・複合化を進めていただくとともに、県も含めて、他団体と共同での施設の設置・管理ということも考えていただくのが良いと考える。

公共施設マネジメントは、典型的な総論賛成・各論反対の世界だと思うので、進めるのは難しいと思うが、時間をかけて、事業課も含めた市全体で現状共有した上で、一つずつ実施できるかどうかを議論していくことが重要だと考える。

- ・税収が少ないとの説明があったが、中核市の偏差がどの程度散らばっているのかが気になる。大企業を抱えている市が大きく突き抜けていて、その他は似た状態ということであれば順位はあまり意味がなくなるので、次回以降で偏差の位置付けが知りたい。
- ・他市の状況等をインターネット等で見ると、災害が起こった際の復興予算はかなり高額になるという感想を持ったが、防災対策として投資することの効果について考えると、防災対策を行わない場合に復興のための予算がこれぐらい掛かるということと比較すれば、現在の防災対策の予算が決して過大なものではないという説明が十分つくと思うので、そういった数値をお示しいただければと思う。
- ・保育所への入所理由は、労働だけではないと思うが、保育所が多いということは市民の方が頑張って働いている、また清掃費が低いのは市民の方が頑張って分別している、ということで高知市民は真面目に頑張っており、真面目な市民性が見えた。
- ・健康、安全、教育の3つは全ての国民に等しく保障されるべきもので、高知市はその部分をしっかり実施してきたのではないかと感じた。千葉県の流れ山市では子育て支援に力を入れていてキャッチコピーもつくってPRしているが、高知市でもそのような対外的にPRできるキャッチコピーがあってもよかったのではないかと感じた。

- ・生活保護が多いという点について、生活保護を受給することは悪いことではなく、大事なセーフティネットとして利用していただけたらいいと思う。真面目に働いている方たちが、何かの要因で生活が困窮し生活保護を受給するという現象については、もう少し皆で支えていきたいし、さらに言うと中小企業や個人事業主の方がもっと稼いでいける手段がもっとないのだろうかと思う。
- ・高知市民は、アート、踊り、舞台芸術やストリート・パフォーマンスが好きだと思っているが、ホールの規模が中途半端だと感じる。感覚的に県民文化ホールが 1,500 人、かるぼーとが 1,000 人、春野文化ホールが 500 人、美術館ホールが 400 人程度で少しずつ違う。先日有名アーティストが来たときは県民文化ホールを使っていたが、県外からも観客が来るのでチケットが取れないような状況なので、大きなホールが 1 つあればよいが、現状は中途半端だと感じた。他の委員さんが言われたように総論賛成・各論反対で難しいと思うが、少し減らさないと、他の使うべきところにお金が使えないのだろうかなどは感じた。
- ・若年、特に未就学児や高齢者、障害がある方への支援は手厚いと思うが、中間層の教育や交通の面は弱いと感じる。子どもを大学等の高等教育機関に行かせたい時の支援がないと、ここに来て子育てしませんかと言いづらと思う。また公共交通機関はやはり弱いと感じる。この部分が強くならないと、抜本的に人口を増やして産業活性化して、まちを明るくする、ということが売り出しにくいと感じた。
- ・国を挙げて人口減少対策に重点を置かれており、高知市でも人口減少を食い止めるということを最重要課題として取り組んでいることと思うが、将来的に労働人口を増やす取組や、子ども医療費の無償化施策によって子育て世帯等を増やす取組など、高知市がどこに重点を置いているかを念頭にしないと、歳入確保や歳出削減について個別に考えていくのは難しいのではないかと。
- ・公共施設マネジメントについては全国的な課題だと考えるが、時代の変化に応じて、スクラップだけじゃなく、一定のビルドも必要だと思う。公共施設マネジメント計画では、新たな公共施設が必要となった場合の維持費等以外に、経済効果や施設をつくることで得られる収入についても言及するべきで、そういった経済効果や収入が得られないのであれば、前回に意見もあったが、太陽光パネルを設置する等のプラスアルファの何かを考えていかなければならないと思う。
- ・国からの支援等について有効活用していくためには、様々な団体の管理等について、高知市が音頭を取っていくことで、より有効に活用することができるものも多いと思う

のでその点をお願いしたい。

- ・高知市は住民にとっては住みやすい町なんだなっていうのが第1印象。しかし、将来的に破綻しないようにしていただきたいので、都市計画税を徴収していないという点が一番のポイントになるのではないかと思います。
- ・このくらいの税金をいただいて、このくらいの事業を実施しているということを市民に見せていかないと、税金は納めているが高知市がどんな事業を実施しているか分からない、ということだと不満も出てくるし、見える化をするために、分かりやすく高知市の現状をお知らせし、市民の方に協力していただき、もっと良い高知市にしていく。また、そういったことを子どもたちにも知ってもらうことで将来的にもプラスの効果があるのではないかと。
- ・公共施設マネジメントについては、無料で施設を利用できるのは非常に良いかとは思いますが、今後のことを考えると、物価高騰等で経費が高くなっており、無料ばかりではいけないのではないかと思います。また、施設の民営化の検討も必要ではないかと感じた。
- ・ごみ袋の有料化は実施したほうがよいと思う。その方がより分別への意識も高まるし、すぐに実施できる収入改善策ではないかと思う。
- ・ふるさと納税において、高知市にはおいしい食べ物等の強みがあるので、そういった点をふるさと納税で広げていけば、観光客増加等の別の収入増加にもつながるのではないかと。またよさこい祭りも強みであり、よさこい祭りには全国から多くのよさこいファンが集まるので、そういった場面でもっと何かを仕掛けていけば、収入増につながるのではないかと。
- ・類似団体比較について、例えば県庁所在市や大都市圏等の個別の事情について、補足があるとわかりやすいのではないかと思います。
- ・例えば保育所の運営費について、交付税でどれくらい算定されているかの資料があると、歳出のうち金額が大きいものについての評価がもっとしっかりできるのではないかと。また、公共施設マネジメントも同様で、それぞれの財政措置があり、例えば文化施設等は一般財源負担が大きいですが、一方で学校施設は交付税でしっかり措置されており、それらを一緒に考えることはできない。したがって、財政措置を含めて評価していかないと評価を誤るのではないかと考える。

- ・収支推計については、令和5年度に策定した財政健全化プラン時の推計からもかなり変わっている。このように、財政収支見通しは毎年度の時点更新を行っていかないと、財政健全化を市民とともに進めるということにはならないと感じる。
- ・資料にある類似団体の一覧図で、新幹線によって恩恵を受けている市を見てみると、四国は恩恵を受けている市がないので、四国新幹線が実現すると大きく変わるのではないかと感じた。また都市計画税の議論についても、四国新幹線が実現すると大きく変わるのではないかと感じた。